

「切らずに治すがん治療」 ～放射線治療ってな～に～

日時 平成23年6月12日(日) 14:00～16:00

場所 倉吉パークスクエア内
倉吉交流プラザ2階視聴覚ホール

主催:鳥取県立厚生病院

共催:倉吉市立図書館

後援:鳥取県中部医師会 鳥取県放射線技師会 新日本海新聞社



お知らせ

次回の市民公開講座は次のとおり開催する予定です

○日 時:平成23年9月3日(土)午後1時30分～午後4時

○会 場:倉吉未来中心 小ホール

○テーマ:「肺がんの予防と現状」—肺がんにならないために、肺がんを治すために—

14:00 開 会

あいさつ 鳥取県立厚生病院長 前田 迪郎

14:05 講 演

その① 吉田 収 (鳥取県立厚生病院 中央放射線室副室長)

～休憩～

その② 橋本 政幸 (厚生病院 放射線科部長)

15:40 質問コーナー ～みなさんからの質問にお答えします～

16:00 閉 会

【講演要旨】

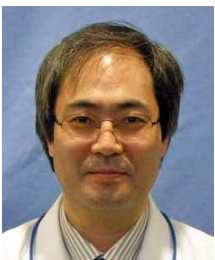
講 演 その① 鳥取県立厚生病院 中央放射線室副室長 吉田 収



1895年、レントゲンにより放射線が発見され、そのわずか1年後には放射線治療が開始されました。1899年には鼻に出来た皮膚がんの治療に成功しています。1950年前半のコバルト治療装置を経て、もとは物理実験装置として開発された直線加速装置(リニアック)が現在の主役となっています。

近年のCTをはじめとする画像診断技術とコンピュータ技術や機械工学の進歩は、従来の放射線治療に大きな変革をもたらしました。この切らずに治す放射線治療の永遠のテーマである「いかにがんに集中して放射線を照射し、正常臓器に照射する放射線を減らしていくか」をご紹介します。

講 演 その② 鳥取県立厚生病院 放射線科部長 橋本 政幸



放射線治療は、手術、抗がん剤治療とならび、現代のがん治療の3本柱の一つです。放射線にはいくつかの種類があり、それぞれ特徴がありますが、いずれもがん細胞のDNAを傷つけることでがん細胞を減らしてゆく点は共通しています。

今回の市民講座では、放射線ががんによくみや、どのようながんの有効で、どのような副作用があるか、また、当院では実施できないものも含めて、国内で実施されている様々な放射線治療の紹介も行いたいと思います。

なお、がん治療とは直接関係ないですが、最近関心を集めている放射線の人体への影響についても少し解説したいと思います。